

▲▼▲第55回クリエイティブサロン (2018年5月12日)開催報告▲▼▲

第1部講演会：「帆船訓練の効果とアクティブラーニングの実践」

講師：國枝佳明氏 (東京海洋大学教授、1級海技士(航海)、博士(海事科学))



海事教育は、教室での授業と実船での訓練によって構成されている。日本では実船訓練を汽船と帆船練習船で行っており、帆船練習船による訓練効果は大きいと感じている。マストに登る訓練では恐怖と戦い、マストトップまで登る。自分の身を守るため五感を研ぎ澄まし、安全を迫及するようになる。さらに目標を達成した時の達成感を味わうとともに自身の成長を実感し自信が得られる。帆船の航海では様々な自然を間近で感ずることができ、自然の驚異と偉大さを実感する。多くの仲間と協調して帆走航海を行うことで、リーダーシップ、チームワーク力やコミュニケーション力などを身に付けることができる。創造性テストの一手法であるトランス式創造性テスト(TTCT)を帆船訓練の前後で実施して変化を調べたところ、発想数と独創性に顕著な向上が見られた。

アクティブラーニング(以下、「AL」)の実践として教室における授業と学内練習船実習にALの要素を取り込んで実施した。知識定着型のALと問題解決型のALを実施し、学生の評価と感想文の質的分析を行った。両AL型授業とも学生の評価は高く、特に問題解決型ALが高い評価であった。これらAL型授業の質的分析の結果、①グループワークの効果、②グループワークにおける対話の効果、③全体への発表の効果などが示された。また、学内練習船における揚投錨操船実習にALの要素を取り入れて実施し、知識及び技術の定着に一定の効果が確認された。チームマネジメントの理解や操船方法の改善など、自ら問題を解決する能力の向上にも効果があったことがうかがえる。

ALは創造性の向上に効果があると考えられており、単に知識の定着にとどまらず色々な創造性に満ちた発想ができるようになると考えられる。帆船実習においても自然と向き合い、困難を仲間と協力して克服する中で創造性の向上につながるものと考えられる。当日は、珍しさもあって皆さん興味深く聞いていただいた。創造性と縁遠い分野のように思われるが、創造性豊かな皆さんを見習って新たな息吹を吹き込めたらと、当日参加の片岡学生と話している。(記事：國枝佳明)

第2部ワークショップ：「バーチャル大学院設立準備委員会でのパイロット科目のUX分析による妥当性検証-Learner Centric-」

講師：多賀万里子氏 一般社団法人ファーストスタープロジェクトソリューションディレクター、
明治大学サービス創新研究所 研究員



デジタル・マーケティングで活用されるカスタマー・ジャーニー・マップを学習プロセスに応用し、指定の科目にて学習の経験(ユーザ・エクスペリエンス:UX)を分析し、学習の成否が決まる条件、科目が妥当であるかを分析してもらいます。ワークショップでは、参加者が「仮想的な大学院設立準備委員会」の委員に任命された、と仮定しています。設計済みのスマート農業勉強会向けに設計した科目の一部の単元を切り出し、それをパイロット科目として再定義しました。パイロット科目は反転授業で、前半ブロックはeラーニング、後半ブロックは対面学習です。今回、初参加でワークショップを行うという、チャレンジングな機会を与えて下さりまして、どうもありがとうございました。

参加された皆様が、私の専門であるインストラクショナル・デザイン(ID)に詳しいわけではなかったのだから、最初に、IDの考え方を説明しておくべきだったと思います。そうすれば、最初の「カオス状態」は避けられたかも。特に教員や経験者の方は、科目の内容に引き釣られてしまうことが、よくわかりました。

また、eラーニングと対面の選択をする場面がありましたが、私の想定と異なり、ほぼ全員が対面授業を選んでいました。私はeラーニングに親近感があるため「参加者の皆様の選択は意外」と思いました。実は、選ばれなかったeラーニングのほうが、見えない相手を想定することになるので、面白かったはずですが。今後、同じような機会がありましたら、どちらかを選ばせることはさせないようにしようと思います。

ワークショップの後、懇親会やメールのやりとりで、IDへの興味やユーザ・エクスペリエンスを設計に役立てる話など、教えて頂いたことはとてもうれしかったです。また機会がありましたら、サロンに参加させてください。どうぞよろしくお願いいたします。(記事：多賀万里子)